

自己資本比率の状況

自己資本比率とは

自己資本比率とは、リスクアセット(貸出金などの資産)に対する自己資本(資本金および過去の利益の蓄積等)の割合を示したもので、経営の安全性を示す重要な指標といわれています。

海外拠点を持つ銀行は国際統一基準(BIS基準)により8%以上を保つことが、また、海外拠点を持たない銀行は国内基準により4%以上を保つことが義務付けられています。ふくぎんは国内基準を適用しています。

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{資本金などの自己資本(注1)}}{\text{リスクアセット(貸出金などの資産)(注2)}}$$

(注1)「自己資本」は、資本金・資本剰余金・利益剰余金などの基本的項目(Tier)と、劣後ローン・土地の含み益・一般貸倒引当金などの補完的項目(Tier)とに区分されます。

(注2)「リスクアセット」とは、資産の各項目にそれぞれのリスク・ウエイト(信用リスクの度合い)を乗じて得た額の合計額のことです。

当行の自己資本比率(連結ベース、国内基準)

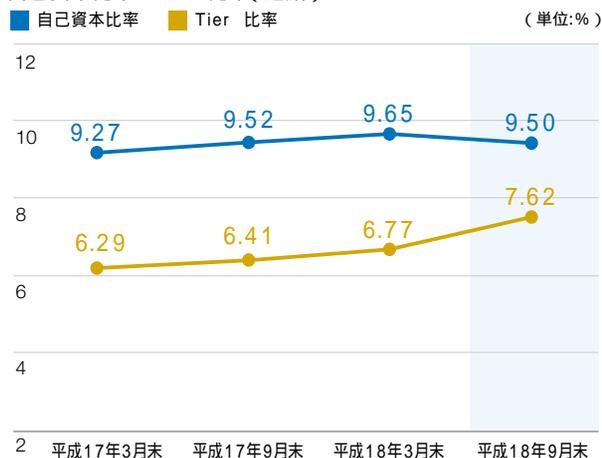
平成18年9月末の自己資本残高は、利益の積み上げ等により、前年同期比347億円増加し4,476億円となりました。このうち、基本的項目であるTierは、前年同期比811億円増加しています。

連結自己資本比率において、利益の積み上げや経営統合のための優先出資証券の発行等によりTier比率は前年同期比1.21%上昇し7.62%と大幅上昇しましたが、熊本ファミリー銀行への資本支援(666億円)および貸出金等のリスクアセットの増加(前年同期比+3,761億円)により、自己資本比率は前年同期並みの9.50%となりました。

自己資本残高(連結)



自己資本比率・Tier比率(連結)



リスクアセット残高(連結)

